県大 SDGs NEWS Vol. 08 2019 March

地域共生センター 発行

SDGs学生大会=びわ湖で考えるSDGs=を開催しました。

3月16日(土)「SDGs学生大会　びわ湖で考えるSDGs @滋賀県立大学」が開催されました。

本イベントは今回が初めての開催でしたが、当日は交流センターをメイン会場に、県内外でSDGs達成に向けて取り組む小学校から大学までの学生の皆さん、様々な市民活動を展開されている地域の方々、これからSDGsを学び、行動したいと考えられている市民や企業の人たちなど、約350名の方にご参加いただき、盛大なイベントとなりました。

滋賀県内各地の懐かしい暮らしの様子が描かれた「ふるさと絵屏風」が並ぶステージで、県大オーケストラ部によるアンサンブルの演奏からSDGs学生大会の幕が切って落とされました。

第１部は、三日月大造・滋賀県知事から「なぜ、いま滋賀からSDGsなのか？」をテーマに基調講演をいただきました。SDGsに謳われている環境・社会・経済の調和の取れた持続可能な開発の実践が、琵琶湖を預かる滋賀県として重要な課題だと認識しました。

第２部は三日月知事、越直美・大津市長、山中隆太郎・滋賀トヨペット株式会社社長と、学生の活動報告者として本学の上田健太郎さん、立命館大学の安里唯さんが登壇され、パネルディスカッションを行いました。2人の学生がそれぞれのグループで取り組む活動を紹介し、パネラー間で意見が交換されました。「最初からSDGsの達成を目的とした活動ではなかったが、気がつけばSDGsに関係することをやっていた。」という学生の話からも、SDGsという世界共通の目標の目指す範囲が様々な分野に広がり、今後いろいろな活動を繋ぐ役割を果たしていく可能性を感じました。

第３部は昼休みの時間を利用して、ホワイエでポスターセッションを行いました。29のグループが日頃の自分たちの活動を紹介し、3分という短い発表時間でしたが、フロアからもたくさんの質問やコメントが寄せられました。このセッションをきっかけに、参加団体間に多くの出会いやつながりが生まれたようです。

午後からの第４部では「SDGsの17目標でつながる」ワークショップを開催しました。参加者が興味のある13のテーマ別の会場に分かれ、各テーマに関連する活動の実践団体からの報告を受けて、共通課題の解決や今後の展開について意見やアイデアを出し合いました。子どもから大人まで、多様な人たちが真剣な表情で、また時には楽しそうに対話される姿が印象的でした。

今回、初開催の「SDGs学生大会」には多くの学生の皆さんが参加してくれました。最後に虎姫高校の皆さんの感想を一部抜粋して紹介します。

大矢真唯さん＞　世の中には自分たちが知らないことばかりなのだなと改めて気づくことができました。高校生だけでは思いつかない専門的な意見を聞けたり、一生懸命自分の知恵を絞って意見を言ったり、楽しんで活動できました。

広瀬汐理さん＞ SDGsは、環境の未来について考える大切な活動なんだということがわかりました。また、ワークショップでは、大学生や地域の人と一つのテーマについて話し合いました。

川上日和さん＞ SDGs学生大会を通して、たくさんのことを学びました。そのひとつが「主体性の大切さ」です。様々な年齢層の方が参加されており、全員に共通していたのが、自分から何かやろうという姿勢でした。

間塚美友さん＞　はじめは少し興味がある程度という気持ちでの参加だったのですが、同じ参加者の方がとても真剣に日本の課題、将来に向けた活動に実際に取り組んでいらっしゃるのを間近で感じ、刺激を受けました。年齢や職業の異なる方々と意見を交換する機会が多く、色々な経験やお話を聞くことができたので参加して本当によかったです。

古山理香子さん＞　「SDGs」という言葉をはじめて聞くと、とても難しそうに感じる。私達個人が今から行動することで解決につながることがたくさんあることを知り、アイデアを考えるだけではなく、実行に移そうと思うようになった。

吉田真子さん＞　「一人の百歩より百人の一歩が大切」という考えがとても印象的でした。ワークショップでは実際に海外支援をしている人の話を聞いて現実の厳しさ、価値観や文化の違いについて学ぶことができました。自分の知らない場面で多くの人が活動していることを知るきっかけとなり、参加できて良かったです。